

『宇宙論の物理・下』第1刷以降の訂正表

2023 年 7 月 4 日現在

箇所	誤	正
p.32, 図 6.3	(左図の横軸ラベル) $3 \cdot 10^2, 3 \times 10^2$	(それぞれ) $3 \times 10^2, 3 \times 10^3$
p.50, 1.5	... , 分布関数の変化率 $\partial f / \partial t$ が宇宙の膨張率 $\dot{a}/a$ に比べて...	... , 宇宙の膨張率が分布関数の変化率に比べて...
p.57, 1.14	$n_e \sim 10^{-3} \text{ cm}^3$	$n_e \sim 10^{-3} \text{ cm}^{-3}$
p.71, 脚注*13	式 (6.289)	式 (6.313)
p.106, 1.14	に固定されていない .	には固定されていない .
p.108, 1.8	垂直であり , ... 固定されている .	垂直になっている .
p.109, 1.22	共動ゲージのもとで	空間的平坦ゲージのもとで
p.123, 1.11	τ, x^i, p^μ を独立変数に持つ	τ, x^i, P^μ を独立変数に持つ
p.133, 1.27	$\Omega_K(t_i) \sim 1$	$ \Omega_K(t_i) \sim 1$
p.134, 1.1	$ \Omega_K \lesssim e^{2(\mathcal{N}_{\min} - \mathcal{N})}$	$ \Omega_K \sim e^{2(\mathcal{N}_{\min} - \mathcal{N})}$
p.135, 1.11	式 (8.10) へ代入し ,	式 (8.9) へ代入し ,
p.135, 式 (8.15)	$\dot{\phi}$ (右辺大括弧内)	$\dot{\phi}^2$
p.143, 式 (8.36)	$V(\phi)$ (2ヶ所)	$V(\tilde{\phi})$
p.145, 1.3	$\Delta = \nabla^\mu \nabla_\mu$	$\Delta = \nabla^i \nabla_i$
p.147, 1.1	$\phi^{(\text{GI})}$	$\delta\phi^{(\text{GI})}$
p.151, 1.20	長波長極限における	(削除)
p.151, 1.21	したがって	したがって , 長波長極限では
p.244, 1.16	満たす必要である	満たす必要がある
p.261, 脚注*7	Lesqourgues	Lesgourgues
p.318, 式 (B.82)	$= R_{ij} V_j$	$= V_j R_{ji} = (R^{-1})_{ij} V_j$
p.318, 1.12	となり、基底の...	となる .
p.333, 1.26	ヘビサイド-ローレンツ単位系 ix , xiii	ヘビサイド-ローレンツ単位系 ix , xiii, 13
p.334, 1.16	(ローレンツ-ヘビサイド単位系の項目)	(この項目を削除)